

第1課 時點與緊接之後：際（に）・に際して ／にあたって・たとたん・（か）と思うと・か ～ないかのうちに

第1課對應《新完全マスター N2》第1部「I ことがらを説明する（客觀說明事情）」的第1課，主題是「時點」與「緊接之後」。N5、N4 學過的～とき（...的時候）和～と（一...就...）是基礎；到 N2 要再分清楚兩個方向：一是較鄭重、書面的「...的時候」——～際（に）和～に際して／～にあたって；二是三組表示「前項一發生，後項就緊接著（往往出乎意料）發生」的～たとたん（に）、～（か）と思うと／～（か）と思ったら、～か～ないかのうちに。

■ 今課目標

- 用～際（に）表達較鄭重、正式場合的「...的時候」，並和日常的～とき 區分。
- 用～に際して／～にあたって 表達「在某件特別、重要的事情之際」，並注意～にあたって 不接負面詞。
- 用～たとたん（に）表達「前項一發生，緊接著就出現意料之外的後項」。
- 用～（か）と思うと／～（か）と思ったら 表達「剛...馬上就...，前後變化又快又大」。
- 用～か～ないかのうちに 表達「前項幾乎一完成，後項就差不多同時發生」。

一、～際（に）：（鄭重）...的時候

■ 比～とき 鄭重的書面講法

～際（に）和～とき 意思相近，都表示「...的時候」，但～際 語氣較鄭重、書面，多用於公司、店鋪、公文、通告或正式場合。日常的瑣碎小事（吃飯、睡覺等）一般不用～際。

～際（に）與～ときの分別

句型	語氣／場合	例
～とき	中性、日常都可	朝ご飯を食べるとき
～際（に）	鄭重、書面、正式場合	お申し込みの際

■ 形式規則

名詞＋の／動詞辭書形・た形＋際（に）。多接表示行為或事件的動詞（利用する、提出する等）或名詞（搭乘、外出等），屬正式、書面語。

■ 例句

1. ご利用の**際は**、こちらの番号札をお取りください。
→ 使用時，請抽取這邊的號碼牌。（名詞＋の，店舖通告）
2. 新しい口座を開く**際に**、身分証明書が必要です。
→ 開立新戶口時，需要身分證明文件。（辭書形）
3. 先日、貴社を訪問した**際に**、貴重な資料をいただきました。
→ 前些日子拜訪貴公司時，承蒙提供寶貴的資料。（た形）
4. 非常の**際は**、エレベーターを使わず階段をご利用ください。
→ 緊急時請勿使用升降機，改用樓梯。（名詞＋の，正式）

二、～に際して・～にあたって：在...之際（鄭重）

■ 面對一件特別、重要的事

～に際して 和 ～にあたって 都表示「在做某件特別的、重要的事情之際」，語氣鄭重，常用於致辭、通告、儀式等場合，多接「一次性、有意志的特別場面」（開業、入學、結婚、簽約等）。

■ ～にあたって 不接負面詞

～にあたって 帶有「積極面對、特地去準備」的語氣，所以不接帶負面色彩的詞（別離、入院、倒閉等）；這類場面要用較中性的～に際して。

■ 形式規則

名詞／動詞辭書形＋に際して・にあたって。鄭重致辭時也常見～にあたり／～にあたりまして。

■ 例句

1. 本日は新工場の開業に際して、一言ごあいさつ申し上げます。
→ 今天謹在新工廠開業之際，向各位致辭。(致辭)
2. 会員登録に際して、利用規約への同意が必要です。
→ 登記成為會員時，須同意使用條款。(通告)
3. 留学生活を始めるにあたって、目標を三つ立てた。
→ 在展開留學生活之際，定下了三個目標。(積極準備)
4. 卒業にあたり、お世話になった先生方にお礼を申し上げたい。
→ 值此畢業之際，想向照顧過自己的各位老師道謝。(鄭重)

三、～たとたん（に）：一...就（突然意外地）...

■ 一發生，緊接著就出現意料之外的事

～たとたん（に）表示「前項動作一發生，緊接著就（出乎意料地）發生後項」。前面用動詞た形，後句多是說話人意料之外、自然發生的事，不能接命令、請求或意志（～よう・～てください等）。

■ 形式規則

動詞た形 + とたん（に）。接表示瞬間動作或變化的動詞。後句帶意外性，不接意志、請求、命令。

■ 例句

1. ドアを開けたとたん、猫が外へ飛び出した。
→ 一打開門，貓就衝了出去。
2. 立ち上がったとたんに、立ちくらみがして倒れそうになった。
→ 一站起來，就頭暈得差點倒下。
3. 名前を呼ばれたとたん、頭の中が真っ白になった。
→ 一被叫到名字，腦海就一片空白。
4. 優勝が決まったとたんに、選手たちはいっせいに泣き出した。
→ 一確定奪冠，選手們就一齊哭了出來。

四、～（か）と思うと・～（か）と思ったら：剛...馬上就...

■ 前後變化又快又大

～（か）と思うと／～（か）と思ったら 表示「前項剛發生，緊接著就出現後項，前後變化來得又快又大」。和～たとたん 相近，但更強調「兩件事接連、對比強烈」。同樣不能用於說話人自己的行為，後句也不接意志、請求、命令。

■ 形式規則

動詞た形 + （か）と思うと・（か）と思ったら。不用於說話人自身的行為；後句多帶意外、對比，不接意志或請求。

■ 例句

1. 空が急に暗くなった**かと思うと**、大粒の雨が降ってきた。
→ 天色剛突然暗下來，馬上就下起大雨。
2. 弟はゲームに負けて怒っていた**かと思ったら**、もう次の試合を始めている。
→ 弟弟輸了遊戲剛在生氣，轉眼又開始了下一局。
3. 彼は席に着いた**かと思うと**、すぐにいびきをかき始めた。
→ 他剛一坐下，馬上就打起鼻鼾來。
4. さっきまで晴れていた**かと思ったら**、今はもう雪が降っている。
→ 剛才還是晴天，現在卻已經在下雪。

五、～か～ないかのうちに：前項幾乎一完成就...

■ 幾乎同時、緊接

～か～ないかのうちに 表示「前項動作幾乎在剛剛完成的那一瞬間，後項就發生」。比～（か）と思うと 更強調「幾乎同時、緊接」。後句同樣不接意志、請求、命令。

■ 形式規則

動詞辭書形／た形 + か + 動詞ない形 + かのうちに。接瞬間性動詞；後句不接意志、請求、命令。

■ 例句

1. 一年生が席に着くか着かないかのうちに、先生が話し始めた。
→ 一年級生才剛坐下，老師就開始講話了。(辭書形)
2. 朝、目を覚ますか覚まさないかのうちに、電話が鳴った。
→ 早上才剛睡醒，電話就響了。(辭書形)
3. 「いただきます」と言ったか言わないかのうちに、弟はもう食べ始めた。
→ 「我開動了」才剛說出口，弟弟就已經開始吃了。(た形)

六、常見錯誤與總整理

三組「緊接之後」的分別

句型	語感	接續／後句限制
～たとたん(に)	一...就...，重點在「意外性」	動た形；後句不接意志・請求
～(か)と思うと・と思ったら	剛...馬上又...，前後對比強烈	動た形；不用於自身行為，不接意志・請求
～か～ないかのうちに	幾乎同時、緊接	辭書形/た形+か+ない形；不接意志・請求

■ 常見錯誤

- **×** 毎日歯を磨く際に、鏡を見ます。
○ **毎日歯を磨くとき、鏡を見ます。**
際 用於鄭重、正式の場合；日常瑣事用 とき。
- **×** 離婚にあたって、新しい生活を始める。
○ **離婚に際して、新しい生活を始める。**
にあたって 不接「別離、入院」等負面詞；這類場面用較中性的 に際して。
- **×** 駅に着いたとたんに、友達に電話しよう。
○ **駅に着いたとたんに、友達から電話がかかってきた。**
とたん 後句不接意志(～しよう)，要是意料之外、自然發生的事。
- **×** わたしは家を出たかと思うと、雨が降ってきた。
○ **家を出たとたん、雨が降ってきた。**
～かと思うと 不用於說話人自己(わたし)的行為；自身行為可用 たとたん。
- **×** ベルが鳴るか鳴らないかのうちに、教室を出よう。
○ **ベルが鳴るか鳴らないかのうちに、生徒たちは教室を飛び出した。**
後句不接意志、勸誘；要是已經發生的事。

自己輸出：用 際（に）・に際して／にあたって・たとたん・（か）と思うと・か～ないかのうちに 各寫一句。可寫公司通告、儀式致辭，或一個突發情況。
